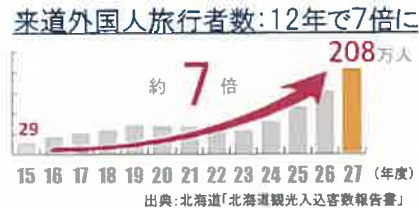
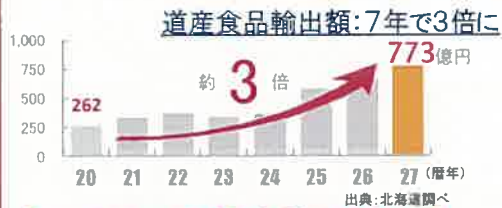


- 北海道の強みである「食」と「観光」を戦略的産業として位置付け、食と観光を担う「生産空間」を支え、「世界の北海道」を目指すのが計画のポイント。
- 社会や時代の要請を踏まえながら、「世界水準の観光地の形成」「食料供給基地としての持続的発展」等に重点的に取り組む。
- 計画を効果的に推進するため、**目指す姿や行動の指針となる数値目標**を念頭に置き、**それを実現するための課題**を明らかにする。また、これらを**関係者と共有**し、施策を推進する。

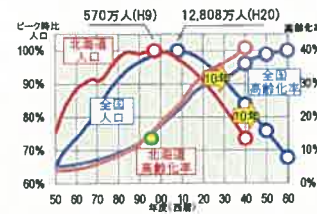
計画のポイント

北海道総合開発計画 ・第8期の現行計画は平成28年3月29日閣議決定。計画期間は2016年度からおおむね2025年度まで。

【北海道の強み】・北海道は我が国の食料供給基地
・食の輸出、外国人観光客も急増



【北海道の課題】・北海道の人口減少は全国よりも10年先に進展
・本州等とは距離感の異なる広域分散型社会



【これからの北海道の戦略】

**「食」「観光」が
戦略的産業**

～人口減少時代にあっても、

- ①北海道には世界と競争し得るポテンシャル
- ②アジアなど世界の市場が拡大傾向

農林水産業、観光等を担う**「生産空間」**
を支え**「世界の北海道」**を目指す

新たな北海道総合開発計画の策定について

(平成28年3月23日国土審議会議長から国土交通大臣宛)(抜粋)

なお、新たな北海道総合開発計画(以下「新たな計画」という。)の実施に当たり、下記の点に留意し、先導して取組を推進することを期待する。

記

3. 新たな計画の推進状況を確実に点検する体制を当審議会北海道開発分科会の活用などによって構築すること。推進に当たっては、北海道民を始めとする関係者が連携して新たな計画の実現に向けた取組を進められるよう、数値目標の共有を図るとともに、推進状況の点検に際しては、当該数値目標を踏まえること。

国土審議会北海道開発分科会計画推進部会(H28.11.17設置)

部会での検討事項

- 推進に当たっての具体的な目標
- 目標実現のための課題の抽出・共有
- 計画の進行管理

(例)来道外国人旅行者数500万人
道産食品輸出額1,500億円等

スケジュール

- 28年12月14日 第1回部会
- 29年3月10日 第2回部会

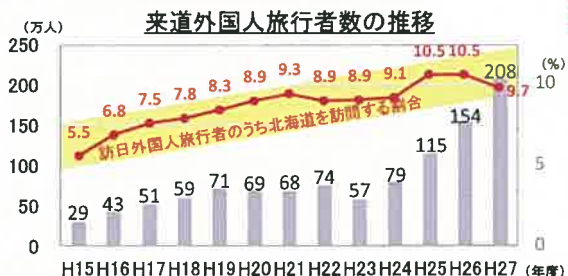
⇒ 29年6月6日 分科会に数値目標等を報告

※以降、計画の着実な推進のため開催。
また、計画の推進に当たり、計画推進部会委員にファシリテーターとして、施策・取組に参画いただく。

○外国人旅行者は近年急増。一方で、外国人旅行者の訪問先は道央圏に集中。客室稼働率の季節変動も大きい。
 ○日本人旅行者(道外客)は平成11年度をピークに横ばい。「長い」「高い」「道内一括り」というイメージから脱却が課題。
 ○北海道が率先して「全道・通年・フル稼働」状態を目指すことにより、我が国の「観光先進国」実現を果敢にリード。

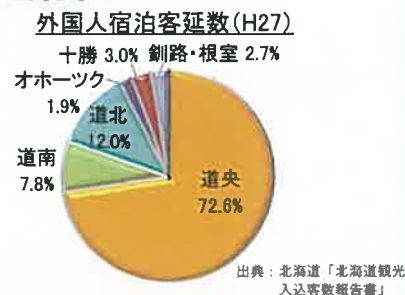
北海道観光の現状

○外国人旅行者は近年急増



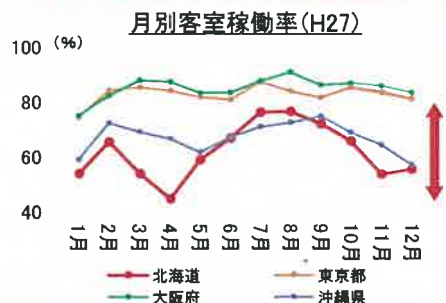
出典：北海道「北海道観光入込客数報告書」、日本政府観光局（JNTO）

○外国人旅行者の訪問先は道央圏に集中



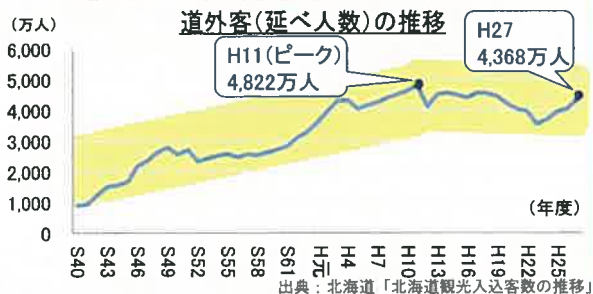
出典：北海道「北海道観光入込客数報告書」

○客室稼働率の季節変動が大



出典：観光庁「宿泊旅行統計調査」

○日本人旅行者(道外客)は平成11年度をピークに横ばい



出典：北海道「北海道観光入込客数の推移」

課題

○急増する旅行者の受入を可能とするゲートウェイ機能の強化・観光地への交通アクセスの円滑化

○スムーズに観光を楽しむためのストレスフリーな移動・活動を可能とする環境整備

○旅行者を呼び込むための地方部・端境期(特に春秋)の需要創出

○旅行スタイルの変化(団体→個人)に応じた観光メニューの多様化

北海道観光の将来像

- ◎世界“最高”水準の観光地を目指し我が国の「観光先進国」実現をリード
- 訪日外国人旅行者の北海道割合をアップ
- 日本人旅行者も増加を目指す

⇒ **全道・通年・フル稼働**

数値目標

①来道外国人旅行者数	平成27年 190万人(基準値) → <目標年>平成32年 500万人
②外国人宿泊客延数の地方部割合(地域平準)	平成27年 27%(基準値) → <目標年>平成32年 36%
③客室稼働率の季節較差(季節平準)	平成27年 1.7倍(基準値) → <目標年>平成32年 1.4倍

「観光先進国」実現に向けた国の目標(抜粋)

『明日の日本を支える観光ビジョン』

訪日外国人旅行者数	<2020年> 4,000万人 (2015年の約2倍)	<2030年> 6,000万人 (2015年の約3倍)
訪日外国人旅行消費額	<2020年> 8兆円 (2015年の2倍超)	<2030年> 15兆円 (2015年の4倍超)

インフラの整備により観光振興を支援

インフラの利活用による観光資源の魅力アップ

- 外国人も日本人も
- 気軽に何んでも楽しい北海道



(拠点型観光のイメージ)

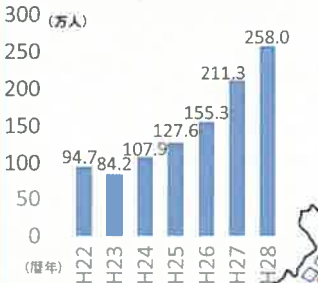
ゲートウェイ機能の強化・観光地への交通アクセスの円滑化

新千歳空港の機能強化



- ・国際線航空便の乗り入れ制限の緩和、1時間当たりの発着枠の拡大
- ・南側誘導路の新設
- ・エプロン拡張
- ・ターミナルビル拡張

新千歳空港国際線利用客の推移



出典・国土交通省航空局「空港管理状況」、国土交通省東京航空局「管内空港の利用概況集計表」

高規格幹線道路の整備



道東自動車道

広域的な観光周遊ルート形成



広域観光周遊ルート(国土交通大臣認定)
 ・「アジアの宝 悠久の自然美への道 ひがし北・海・道」
 ・「日本のでっぺん。きた北海道ルート。」

- 複数空港の一体的な運営の民間委託(検討中)による
- ・道内航空ネットワーク充実強化
 - ・空港間連携等による広域的な観光周遊ルートの促進

北海道新幹線 (写真提供:JR北海道)

クルーズ船の受入環境の改善

- ・クルーズ船の大型化への対応(係船柱及び防舷材等の改良)



室蘭港への寄港状況 (ぱしふいっくびいなす、飛鳥II)

ストレスフリーな移動・活動を可能とする環境整備

外国人旅行者に優しい道路情報

- ・「北海道地区道路情報」英語版 国道・道道の通行止め情報をリアルタイム発信
- ・道路情報板での英語表示
- ・パンフレットの多言語化
 - > エゾシカ衝突事故マップ
 - > 冬道ドライブの心構え



地方部・端境期(特に春秋)の需要創出、観光メニューの多様化

外国人ドライブ観光の推進

北海道ドライブまるわかりハンドブック



外国人旅行者が安全・安心・快適にドライブ観光を楽しむためのポイントを整理。
 ・8言語で作成(日・英・繁・簡・韓・タイ・仏・独)

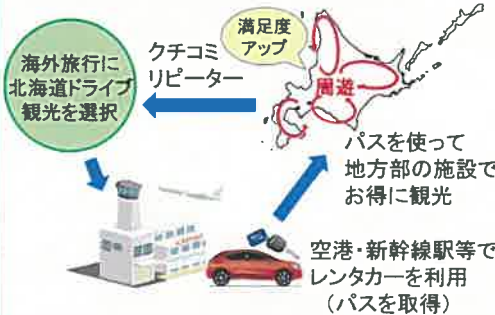
ハンドブック掲載ページ(北海道開発局HP)には、外国語版のみで約7万件のアクセス数(H28年)

外国人レンタカー貸渡台数の推移



出典・北海道地区レンタカー協会連合会調べ

北海道ドライブ観光パス社会実験



外国人レンタカー利用GPS調査(平成27年7月)



出典：北海道開発局調べ

サイクルツーリズムの推進

自転車利用環境の創出

世界有数のサイクリング環境を構築し、サイクルツーリズムを推進するため、多様な関係者と連携しながら、安全で快適な環境を創出。



河川管理用道路等の活用



車道への通行位置明示

○世界の食料需要の大幅な増加等へ対応するとともに、攻めの農林水産業に転換するため、我が国の食料供給基地としての持続的発展を図る。
○このため、「イノベーション等による経営力の強化、食の付加価値向上、食の海外展開」に重点的に取り組む。

課題

○食料供給力の確保・向上のため経営力強化が必要

◆就農者の減少下での生産力の維持向上

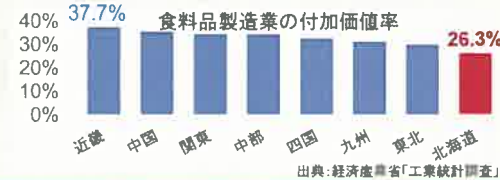
- 農業就業人口は20年間で4割減
(H8:165千人 → H28:95千人)
- 耕地面積は平成2年をピークにほぼ横ばい
(H2: 1,209千ha → H28: 1,146千ha)



○生産空間維持・発展のため雇用・所得確保が必要

◆「生産拠点」から「食の総合拠点」への移行 等

- 食品産業の付加価値率が低い
北海道26.3%(最下位)、近畿 37.7%(全国1位)



道外企業の声(ヒヤリングによる)

○北海道進出に当たっての課題
・北海道は広く、いつ、どこで、どんな原材料が入手できるかなどの詳細な情報が不足。
・道内立地する場合、本州と同じ商品では競争力がなく、「北海道の○○」など、より北海道色を前面に出した商品でないと競争できない。そのためには北海道産材料の安定確保が必要。

目標

人口減少・高齢化、世界の食料需要の大幅な増加や気候変動による供給制約リスクにも対応し、

食料供給基地としての持続的発展を目指す

数値目標

①農業産出額

平成26年 11,110億円(基準値) → <目標年>平成37年 **12,000億円**

②食料品製造業出荷額

平成26年 19,846億円(基準値) → <目標年>平成37年 **22,000億円**

③道産食品輸出額

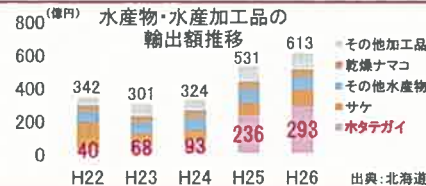
平成26年 663億円(基準値) → <目標年>平成37年 **1,500億円**

○新たな需要開拓のため輸出促進が必要

◆品目毎の輸出力強化 等

水産物・水産加工品

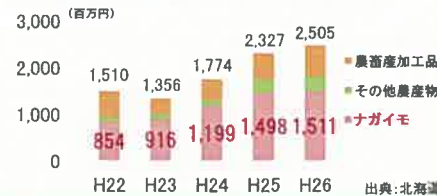
- 水産物輸出額の4割が中国向け、品目では5割がホタテ。
- EUやASEAN等輸出先国の拡大、輸出品目の多様化が課題。



農産物(ナガイモ)

- 台湾、米国の華人社会において薬膳料理の食材として人気。
- ニーズは高いが、水はけ良好な農地が必要。また圃場の除レキが必要。

農産物・農畜産加工品の輸出額推移



○物流コストが高く改善が必要

- ◆物流基盤が弱い

【イノベーション等による経営力の強化】

○農業の競争力の強化のための農地整備の推進

- ・生産コストの低減のため、農地の大区画化の推進
- ・高収益作物の導入のため、農地の汎用化の推進

等

【食の付加価値向上】

○「食」の総合拠点づくりの推進

- ・ホクレン等関係機関と連携した体制整備による関連産業誘致の加速

食の総合拠点づくり検討会の設置(H28.7)

等

【食の海外展開】

○効率的生産のための農地整備の推進

(ナガイモ、コム等)

○拠点漁港での高度な衛生管理体制の構築

等

農業農村整備事業による農地の大区画化、汎用化、地下かんがいの効果

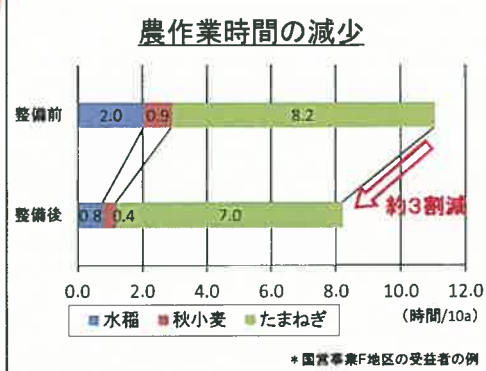
大区画化
(集積、連担化により大型農業機械の導入が可能)



汎用化
(排水機能が向上し、水田での畑作が可能)

地下かんがい
(水管理の適正化、省力化)

○作業効率の向上(余剰労働力)



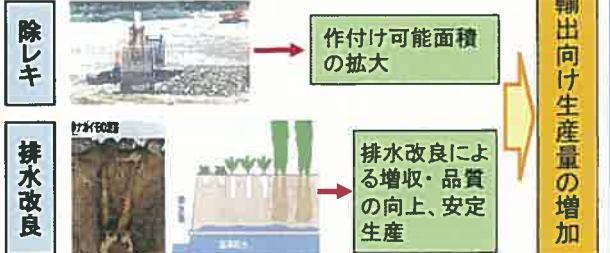
○品質・収量の向上
(整備効果の一例)
たまねぎの収量増加(L大・2Lの割合増加)により収益増加。

○ほ場条件の改善・均一化

品目毎の輸出力の増加

農産物(ナガイモ)

「十勝川西長いも」の場合、国内向けの2L規格に対し、台湾向けは、より大きな4L規格を輸出



農産物(コメ)
大区画化

水産物・水産加工品
屋根付き岸壁
清浄海水導入施設
漁港の一部水域を増養殖の場として有効活用

余剰労働力

○1経営体当たりの経営面積拡大

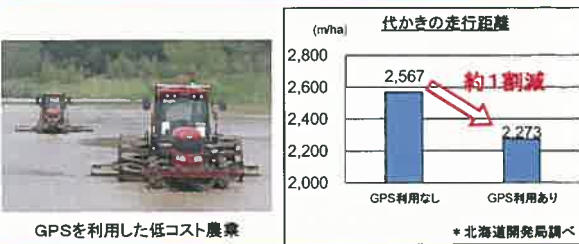


○高収益作物の導入・拡大(トマト等)

○6次産業化の推進(高付加価値化)



○スマート農業の導入(GPS自動走行システム等)



○法人化の加速
・対外信用力の向上
・経営継承の円滑化
・新規就農の受け皿 等のメリット

○作業受委託の促進(コントラクター等)

農業の経営力強化 (収益力の向上、コストの低減、経営の多角化等)

雇用・所得の確保

輸出力の強化

- 計画を効果的に推進するため、行動の指針となる数値目標を念頭に置き、施策・取組を推進する。
- 数値目標については、社会経済情勢の変化や政策動向等を踏まえながら、フォローアップしていく中で、柔軟に見直しを行う。

重点的に取り組む事項

「観光先進国」実現をリードする世界水準の観光地の形成

視点	数値目標	基準値
<ul style="list-style-type: none"> 世界的なブランド力を活かし、我が国の「観光先進国」実現を北海道がリード 政府目標 訪日外国人旅行者4000万人達成に貢献 	来道外国人旅行者数 500万人(H32年)	190万人 (H27年)
<ul style="list-style-type: none"> 現在、訪日外国人来道者の訪問先が道央圏に集中しており、全道各地に誘導して、インバウンドによる経済効果を地方部にまで波及 	外国人宿泊客延数の地方部割合(地域平準) 36%(H32年)	27% (H27年)
<ul style="list-style-type: none"> 北海道の旅行需要は季節的に偏在しており、端境期の需要を創出して、観光関連産業の振興に貢献 	客室稼働率の季節較差(季節平準) 1.4倍(H32年)	1.7倍 (H27年)

食料供給基地としての持続的発展

視点	数値目標	基準値
<ul style="list-style-type: none"> 人口減少・高齢化の下でも、経営力を強化し食料供給力を確保・向上 	農業産出額 12,000億円(H37年)	11,110億円 (H26年)
<ul style="list-style-type: none"> 農林水産品の道内での加工促進等により雇用・所得を創出し、生産空間を維持 	食料品製造業出荷額 22,000億円(H37年)	19,846億円 (H26年)
<ul style="list-style-type: none"> 世界的なブランド力を活かし、拡大が見込まれる世界市場で新たな需要を開拓 政府目標 農林水産品等輸出額1兆円達成に貢献 	道産食品輸出額 1,500億円(H37年)	663億円 (H26年)

食と観光を担う「生産空間」を支える取組

北海道型地域構造の保持・形成



北海道型地域構造(基礎圏域)～頼り頼られる3つの層～

地域づくり人材の発掘・育成

視点	数値目標
<ul style="list-style-type: none"> 「世界の北海道」に向けた価値の発掘と創造 食・観光や地域づくりの取組に寄与 	「世界の北海道」 選定件数※ 100件(H37年度) [基準値-(H27年度)]

※有識者等で構成される「世界の北海道」委員会(仮称)で評価・選定を実施



世界に認められる北海道・新たな「価値」の例
国際的なコンテストで、**金メダルを受賞**。
(新得町「共働学舎新得農場」のチーズ「さくら」)

強靱で持続可能な国土づくり

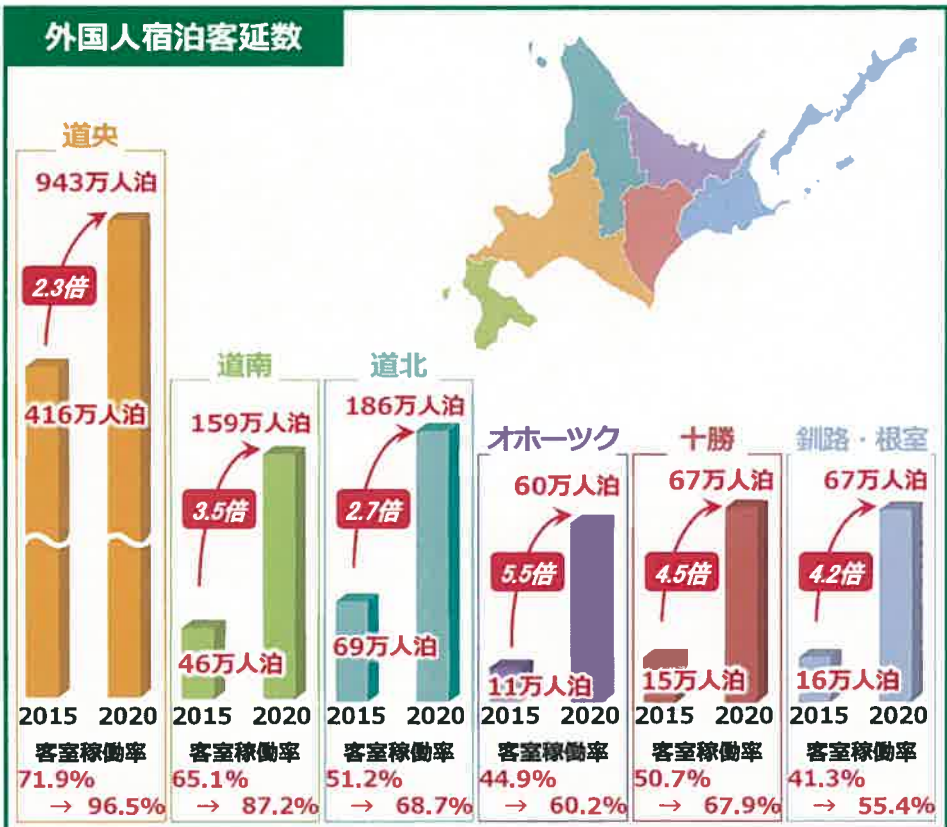
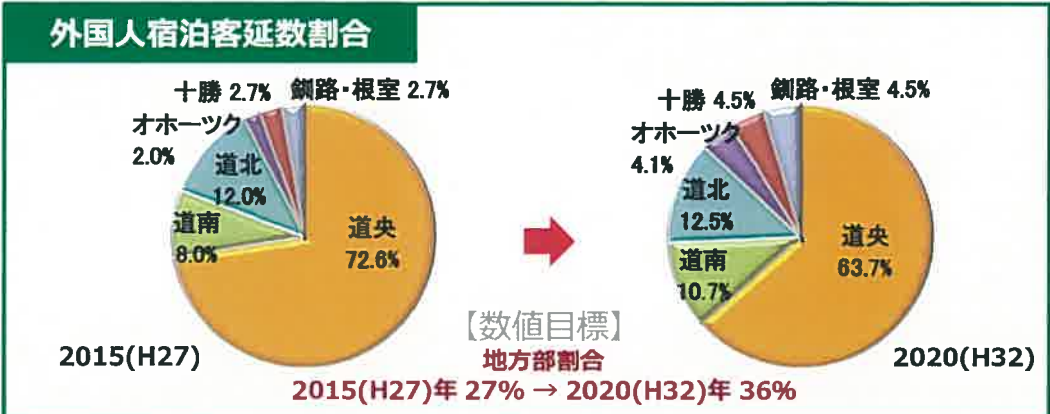
視点	数値目標
<ul style="list-style-type: none"> 平成28年の大雨災害を踏まえ、被害を最小化するため、ハード対策とともにソフト対策を重点的に実施 	防災体制を強化し、住民の意識向上に取り組んだ市町村の割合 100%(H32年度) [基準値-(H26年度)]



H28.8大雨被害(堤防決壊)
(南富良野町)



タイムラインの作成状況



出典:観光庁「全国観光入込客統計に関する共通基準調査」、「宿泊旅行統計調査」、総務省「人口推計」、「国勢調査」、「平成27年労働局調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成25年3月)」、北海道開発局「平成23年北海道産業連関表・雇用表」、北海道観光産業経済効果調査委員会「第5回北海道観光産業経済効果調査報告書」、北海道「北海道観光入込客数調査報告書」、「平成26年度道民経済計算年報」、「保健統計年報」より国土交通省北海道局試算。

※道内外客は、人口1人当たり北海道旅行回数(観光入込客数/人口)のH24~27の年平均伸率よりH32の人口1人当たり北海道旅行回数を推計し、H32の将来推計人口を乗じて算定。道外客は日帰り・宿泊の合計。外国人客は「観光ビジョン」目標値の12.5%とし、H32=500万人を算定。

※6圏域の外国人宿泊客延数は、数値目標であるH32の外国人客500万人にH27の外国人平均泊数(外国人延べ宿泊者数/外国人入込客数)を乗じ、数値目標であるH32の外国人宿泊客延数割合により6圏域別に算分。

※6圏域の客室稼働率は、宿泊状況がH27時点から変わらない(宿泊施設の新増設等を考慮しない等)前提下、H27の客室稼働率、宿泊客延数、客室数を基に、6圏域の外国人宿泊客延数から算定。